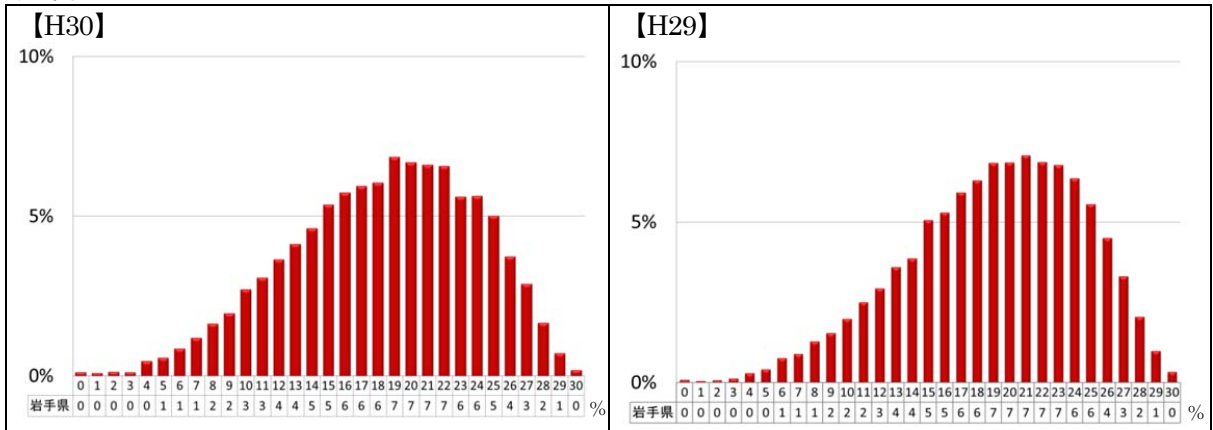


授業改善の手引 小学校第 5 学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 19 問、平均正答数は 18 問です。昨年度の分布と比較して山が左に移動しています。平均正答数が 15 問以下の児童が全体の 24% となっており、この層に属する児童へのきめ細やかな指導が引き続き必要です。
(正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領 域 等	正答率		
	() は H29, < > は H28		
話すこと・聞くこと (6 問)	61%	(66%)	<62%
書くこと (2 問)	53%	(46%)	<54%
読むこと (10 問)	48%	(54%)	<64%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (12 問)	73%	(69%)	<70%
活用	40%	(42%)	<50%

(3) 結果概要

- 『書くこと』の「文章構成に気を付けながら自分の立場とその理由を選んだ特徴をもとに書く」問題や、『読むこと』の「登場人物の心情描写から気持ちを読み取る」問題の正答率が向上する等、よい状況にあります。
- 『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』の「漢字の由来や特質」に関する問題や「修飾語の正しい使い方」、「ことわざの意味や正しい使い方」の問題についても改善傾向が見られます。
- 活用を意識した問題においては、「場面の展開に即して登場人物の気持ちを捉える」問題の正答率が 64% と、改善傾向にあります。
- 「読むこと」の「登場人物の言葉から、伝えようとしている意味を捉える」問題と「説明されている事柄について、内容を正しく抜き書きする」問題の正答率が低い傾向にあり、依然として課題が継続しています。
- 活用を意識した問題においては、「収集した情報を一つの文章にまとめる」問題が正答率 28%、「文章の内容を正しく捉え、目的や必要に応じて要約する」問題が正答率 22% と指導の工夫が必要です。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較々々を表す)

通し番号	正答率	比較	通し番号	正答率	比較
●11 (伝国)	67	▲ 4	●19 (読)	62	▲ 13
●12 (伝国)	73	▲ 7	●27 (読)	53	8
◇16 (伝国)	47	19	◇30 (書)	52	12

- 通し番号 16, 30 は正答率が 10 ポイント以上向上し、改善傾向が見られましたが、引き続き注視が必要です。
- それ以外の小問については、依然として課題が継続している状況です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1	話の組み立て方を意識しながら、話の内容を聞くことができる。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞			88	5	88	6	1			
	(2)	2	発言の内容をもとに、話し合いの流れをまとめることができる。	第5・6学年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用		32					66	32	3
	(3)	3	話し合いにおける司会の役割をとらえて聞くことができる。	第5・6学年「話・聞」(1)オ	話・聞			72	8	4	72	15			1
2	(1)	4	お知らせの内容に図を用いた意図を答えることができる。	第5・6学年「話・聞」(1)エ 第5・6学年「書」(1)ア	話・聞			65	14	65	11	9			1
	①	5	収集した情報を一つの文章にまとめることができる。	第5・6学年「話・聞」(1)ア・イ	話・聞	活用		28					63	28	9
	②	6	相手に伝えたい項目を明確にすることができる。	第5・6学年「話・聞」(1)ア・イ	話・聞			83	83	5	5	2	3		2
3	(1)	①	第4学年配当漢字「続(く)」を正しく読むことができる。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国			97					2	97	
		②	第4学年配当漢字「順位」を正しく読むことができる。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国			96					4	96	
	(2)	①	第4学年配当漢字「冷たい」を正しく書くことができる。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国			78					19	78	3
		②	第4学年配当漢字「材料」を正しく書くことができる。	第3・4学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国			74					22	74	4
	(3)	ア	漢字辞典で部首索引するときの部首の画数を答えることができる。	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ク)	伝国	経年		67					29	67	4
		イ	漢字辞典で部首索引するときの部首名を答えることができる。	第3・4学年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ク)	伝国	経年		73					21	73	6
	(4)	①	文の意味を考え、反対の意味の言葉を答えることができる。	第3・4学年「伝国」(1)イ(オ)	伝国			88	1	0	8	88	3		1
		②	文の意味を考え、反対の意味の言葉を答えることができる。	第3・4学年「伝国」(1)イ(オ)	伝国			84	84	10	1	1	3		1
	(5)	15	漢字の由来や特質について答えることができる。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国			43	43	21	24	9	1		1
	(6)	16	文の構成を理解し、修飾語を正しく使うことができる。	第3・4学年「伝国」(1)イ(キ)	伝国	経年		47	9	10	33	47	1		
(7)	17	ことわざの意味や正しい使い方を答えることができる。	第3・4学年「伝国」(1)ア(イ)	伝国			60	12	24	60	3			1	
(8)	18	文章の意味を考え、漢字を正しく使うことができる。	第5・6学年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国			68					19	68	7	
4	(1)	19	場面の移り変わりをとらえ、場面についての描写の一文を挿入することができる。	第3・4学年「読」(1)ウ	読	経年		62	8	62	10	16	2		3
	(2)	20	登場人物の言葉から、登場人物の伝えようとしている意味をとらえることができる。	第5・6学年「読」(1)エ	読		3						77	3	19
	(3)	21	登場人物の心情描写から、気持ちを読むことができる。	第5・6学年「読」(1)エ	読			72	8	6	11	72	1		2
	(4)	22	登場人物の言葉から、気持ちを読むことができる。	第5・6学年「読」(1)エ	読			50	5	21	50	22	1		3
	(5)	23	場面の展開に即して、登場人物の気持ちをとらえて読むことができる。	第5・6学年「読」(1)エ	読	活用		64	64	6	18	8	1		3
5	(1)	24	文と文のつながりを正しくとらえて読むことができる。	第3・4学年「読」(1)イ	読			55	6	55	18	18	1		2
	(2)	25	説明されている事柄について、内容を正しく抜き書きすることができる。	第5・6学年「読」(1)ウ	読			39					38	39	23
	(3)	26	文章の内容を正しく読み、適切な段落をとらえることができる。	第5・6学年「読」(1)ウ	読			65					29	65	6
	(4)	27	段落相互の関係をおさえ、段落の役割を正しくとらえることができる。	第3・4学年「読」(1)イ	読	経年		53	12	12	13	53	1		8
	(5)	28	文章の内容を正しくとらえながら、目的や必要に応じて要約することができる。	第3・4学年「読」(1)エ	読	活用		22					61	22	17
6	(1)	29	段落構成を考えながら、指定された長さの文章を書くことができる。	第3・4学年「書」(1)イ	書			53					26	53	21
	(2)	30	文章の構成に気を付けながら、自分の立場とその理由について、選んだ特徴をもとに意見を書くことができる。	第3・4学年「書」(1)ウ	書	経年活用		52					25	52	22
全体正答率								61							

※整数値で表示のため、合計が100にならない場合があります。

2 指導のポイント

(1) 物語の設定を適切に押さえながら、登場人物の心情を捉える学習活動を進めましょう。

ア 問題の概要

- 4 (2) 登場人物の言葉から、登場人物の伝えようとしている意味を捉えることができる。
第5・6学年「読」(1)エ 正答率 3%

イ 誤答分析

- (ア) 無解答率は19%でした。誤答を分析すると、傍線で指定された部分の直前の文章または会話から五字を抜き出している誤答が多く見られました。また、はじめの五字ではなく、文章途中の五字を抜き出している誤答や、風景等の情景描写を選んでいる誤答も多く、題意を捉えきれていない様子が見られました。
- (イ) この問題では、ユクの人物設定を確実に押さえた上で、「何色を重ねたら、その色を出せるか」という言葉に関わる心情に着目することが求められます。つまずきの要因として、登場人物や場面の設定をふまえて、ユクの置かれた状況や心情を捉えることが十分にできていないことが考えられます。また、会話文を意識するあまり、文章全体を通して人物の心情が表現されている叙述を捉えて読む力が弱いことが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-4(3)】

- (ア) 基本的な物語の構造では、登場人物や場面の設定が、物語の冒頭や始まりの場面に位置付けられることが多くあることを押さえましょう。物語の冒頭や始まりの場面では、「時」、「場」、「人物」等が説明されています。特に「人物」では、登場人物はどのような性格なのか、どのような生活をしているのか、どのような人物関係にあり、どのような状況に置かれているのか等に注目することが、その後の物語の展開に大きく関わることを押さえましょう。
- (イ) 登場人物の心情を捉えるには、特定の場面の叙述だけでなく、文章全体を俯瞰しながら複数の叙述を関係付けて読むことが大切です。手掛かりとなる描写を文章全体から取り出し、関連させながら心情を捉える学習を取り入れましょう。その際、関わりのある叙述にサイドラインを引かせる等の手立てをとり、人物の心情は会話文だけでなく地の文にも表現されていることに気付かせていくようにしましょう。

(2) 目的や必要に応じて、文章の内容を要約する学習活動を位置付けましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

- 5 (5) 文章の内容を正しく捉えながら、目的や必要に応じて要約することができる。
第3・4学年「読」(1)エ 正答率22%

イ 誤答分析

- (ア) 無解答率は17%でした。どの叙述に着目すればよいのか迷ったものと思われます。また、誤答の多くは、条件となっている『リモコンから出た光』という言葉を使用せずに、自分の生活経験と結び付けて書いたものや『発光部から出る光』という言葉を使用して書いたものでした。叙述としては正しいものの、解答する際の条件を意識して答えることに課題が見られました。
- (イ) この問題では、第5段落に、解答に必要な「二つ目の問いとその答え」が述べられている文章構成であることに気付き、解答する条件を踏まえた上で、必要な情報を落とさずに解答することが求められます。つまずきの要因として、文章全体の段落構成や各段落の役割を押さえる力や、与えられた条件を適切に組み入れながら目的や必要に応じて要約する力に課題があることが伺えます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-5(3)】

- (ア) 要約の指導では、まず、「自分の課題を解決するために必要な部分をまとめる」、「本を読んで内容を紹介するためにまとめる」、「各段落の要点を文章のつながりに気を付けながらまとめる」等、要約の目的を明確にしましょう。次に、文章全体の内容を正確に把握するために、文章構成図等を作成しながら段落相互の関係を捉え、筆者の考えとそれを支える理由や事例等に気を付けながら読みます。そして、要約する分量や時間等を考え、元の文章の構成や表現を生かしたり、自分の言葉を用いたりしながら要約できるように、言語活動を通して指導していきましょう。

- (イ) 要約をする時は、自分が必要とする事例や意見が、どこにどのように書かれているのかを見付けてまとめさせるようにしましょう。本問の場合であれば、例えば「リモコンの働き」について全体をまとめたり、「赤外線の仕事」や「リモコンの仕組み」等の中心となる語句に着目してまとめたりする等、目的に沿った要約を経験させることが求められます。また、要約したものをペアやグループで読み合い、目的に応じた要約になっているか、表現は適切か等、振り返る観点を明確に設定して相互評価や自己評価を位置付けましょう。

(3) 目的に応じて、情報を明確に伝えられるように指導しましょう。

ア 問題の概要

2 (2) ① 収集した情報を一つの文章にまとめることができる。

第5・6学年「話・聞」(1) ア・イ 正答率28%

イ 誤答分析


- (ア) 無解答率は9%でした。誤答を分析すると、「(借りた本を) 他の人に貸さないでください。」「(借りた本を) よごさないでください。」の二つの事柄のうち、片方の事柄だけを記述していた解答が多く見られました。
- (イ) この問題では、目的に応じて情報を分類・整理した上で、条件を踏まえて情報をまとめることが求められます。つまりの要因として、①【お知らせ】に書かれている情報を、【新しいお知らせ】に示されている4つの小見出しに沿って分類・整理できていないこと、②空欄アにまとめるべき事柄が二つあることを捉えていないことが考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 中2-1 (4)】

- (ア) 情報の分類・整理の仕方は、伝える目的や意図によって変わります。ですから、自分が伝えたい内容を検討する際には、目的や意図に応じてどのようなことを観点にして情報を分類することが必要かを考えさせたり、複数の情報を関係付けて共通のものとして整理してまとめさせたりすることが重要です。また、伝えたい内容を練り直すことは、伝える目的や意図を一層明確にすることにもつながります。情報を分類・整理する活動では、付箋を用いた情報の分類や、観点に沿った情報の類型化などの思考の可視化を工夫しましょう。
- (イ) 伝えたい内容を検討する力を高めるためには、目的や意図に応じた情報の分類・関係付けが大切です。例えば、事物や人物を推薦する言語活動では、対象のよさを伝えるという目的や意図に応じて、そのよさを整理したり、印象付けるために必要な根拠を選んだりすることが重要です。また、相手の要求や目的に合致した内容を取り上げているかを考えることも必要です。上記の要素に照らして自己評価や相互評価を行い、児童が学習内容を自覚しながら学習できるようにしましょう。【展開例 参照】

【目的に応じて、情報を明確に伝える学習活動を位置付けた授業展開例】＜1時間の流れ＞

教材：平成30年岩手県小学校学習定着度状況調査²

導 入	<p>1 二つのお知らせについて、場面の状況を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会で、図書室に貼ってある【お知らせ】をもっと分かりやすくするために話し合い、【新しいお知らせ】を書き直しているという場面の状況を把握し、比べて読む目的をもつ。 <p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【新しいお知らせ】の情報のまとめ方のよさについて考えよう。</p> </div>
展 開	<p>3 【新しいお知らせ】の情報のまとめ方のよさを見付け、交流する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 20%;"> <p>図があって分かりやすいです。</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 20%;"> <p>大切な情報が囲みの中に書かれていて、目に留まります。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 20%;"> <p>小見出しが付いていて、何について書かれているかすぐに分かります。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 20%;"> <p>情報を整理して伝えているから、必要な情報がすぐに分かります。</p> </div> </div> <p>4 情報のまとめ方を確かめる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">【新しいお知らせ】</p> <p style="text-align: center;">図書室の利用の仕方</p> <p>① 本の借り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸し出しカードに、自分の名前と本の題名を書いて、本と一しょにカウンターに出します。 <div style="display: flex; align-items: center; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>本は、一度に 二さつまで 一週間 借りられます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">本だな</p> <p style="text-align: center;">置き場</p> <p style="text-align: center;">↑カード</p> <p style="text-align: center;">↑カウンター</p> <p style="text-align: center;">入り口</p> </div> </div> <p>② 本の返し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本だなにもどさず、カウンターに返します。 <p>③ 本を借りたときの注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を返す日を守ってください。 <p>④</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 100px; margin: 5px 0;">ア</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ⑤ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: 100px; margin: 5px 0;">イ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室では、静かにしてください。 ・ 借りないで、図書室で読んだ本は、自分で元の本だなにもどしてください。 </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">【お知らせ】</p> <p style="text-align: center;">図書室の利用の仕方</p> <p>① ・本を借りるときは、本と、貸し出しカードをカウンターに出してください。</p> <p>② ・本を借りるときに、貸し出しカードに、自分の名前と本の題名を書いてください。</p> <p>③ ・本を返す時は、勝手に本だなにもどさないで、カウンターに返してください。</p> <p>④ ・本は、一度に一人二さつまで、一週間借りられます。</p> <p>⑤ ・図書室では、静かにしてください。</p> <p>⑥ ・借りた本を、他の人に貸さないでください。</p> <p>⑦ ・借りないで、図書室で読んだ本は、自分で元の本だなにもどしてください。</p> <p>⑧ ・借りた本を、よごさないでください。</p> <p>⑨ ・本を返す日を守ってください。</p> </div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>※ 【お知らせ】に書かれている情報を、【新しいお知らせ】の小見出しに沿って分類させましょう。分類の仕方(印を付ける、矢印でつなげる等)を例示し、子供に具体的なイメージをもたせましょう。</p> </div> </div>

5 空欄ア, 空欄イに当てはまる文や小見出しについて考える。

※ 空欄アについては,【新しいお知らせ】に書かれていない二文に着目させ,その二文を一文にまとめることが必要であることを捉えさせましょう。

※ 下記の文を例示し,知らせたいことが正しく伝わっているかどうか,表現のふさわしさを考えさせましょう。

- ① 借りた本を,他の人に貸さないでください。それから,よごさないでください。
- ② 借りた本を,他の人に貸さないで,よごさないでください。
- ③ 借りた本を,よごさないで,他の人に貸さないでください。
- ④ 借りた本を,他の人に貸したりよごしたりしないでください。

一文にまとめる
のだから,①はふさわ
しくないよね。

②と③はどうか。②は「貸さないで」と「よごさないで」が続いて意味が分かりにくいなあ。どちらを先に伝えなくちゃいけない順番はあるのかな。

④のように「たり」を使うと,知らせたい二つのことを一つの文章でうまく伝えられるね。

④と似ているけど,順番は関係ないから,「借りた本を,よごしたり他の人に貸したりしないでください」でもいいよね。



※ 空欄イに当てはまる小見出しについては,内容面と形式面(例;文章の語尾)から,二文に共通することを考えさせましょう。

【内容面から】

二文とも,図書室でどのように過ごしてほしいかが書かれているから,「図書室での過ごし方」という小見出しを考えました。



【言葉から】

どちらにも,「～ください。」という文末で図書委員会からのお願いが書かれているから,「お願い」という小見出しを考えました。

6 学習を振り返る。

- 印を付けながら二つのお知らせを照らし合わせたことで,伝えたい内容をただ並べるよりも,小見出しを付けて伝えたい内容を整理して伝えるとわかりやすくなることが分かりました。
- 自分も,これから情報を伝えるときには,小見出しを付けながら情報を整理して伝えたいです。
- 順番が決まっていない二つのことを一つの文章で表すときには,「～たり」を使うと一つの文章でうまく伝えられることが分かりました。

終末